

水

長谷川時雨

青空文庫



趣味とは、眺めてゐるものと、觸さはつて見るもの、觸ふれなければ堪能できないものと、心に養つてゐるものがある。それを大おほづかみに一括して「趣味」といふのだらうが、自分に出来ないことを羨ましがれるのも、いい意味での趣味だ。それは羨望には、ものねたみをふくむ憂うれひはあるが、こんなのは甚だ罪が浅い——

といふのは、私には水泳およぎが出来ないのだ。これは水ぎらひとか、恐怖とかいふのから出来ないのではなくて、生れた土地的のものからと、體質からだからとで、水練の機會がなかつたからだ、これは、一生を通じて損をした大きなものだと思ふ。

場處により、土地によると、別に財物がなくても修練の出来る業わざであり、また健康でさへあればほんの僅かの暇さへあれば、自由に樂しまれることであり、それによつて、夏の生々しさを、どれほどよろこびをもつて迎へることが出来るかわからない。わたしは健康でさへあればといったが、その健康もまた、それによつて惠まれもする。

わたしのお友達で、水練に熟達してゐる人に、神近市子さんがある。神近さんは南國の海邊のお生れであり、拔手を切つて泳ぐ颯爽たる姿は、誰の目にも思ひうかべられるであらうが、も一人、平塚明子さんが、水の上の仙境を自由にされることは、あんまり知る人

がない。

——海面うみに浮いて、空を、じつと眺めてみると、無念無想、蒼空おほぞらの大きく無限なることをしめし／＼とおもふ——

かつて、そんなふうには話されたことがある。それは、わたしが常つね不しじう斷、海にういて、大空を眺めてゐたらば——と思ふ、悠久たる想念おもひと合致した、實行の報告なので、さぞ、さこそ、さもさうあらうと、想像しても楽しかつた。それは、考へれば怖い水の下の深さ、廣さ——けれども、それは、仰ぎ見る空の深さ、大きさにくらぶべきでもない。そして、そこに浮ぶ人間の怖れは、小さな抵抗——生に執着した瞬間からの怖さであらうが、そんなことに拘泥しないのは、泳いで歸られるだけの自信があり、水はよく浮かしてくれるといふ體得があればこそである。

うらやましいなあと思ふ。水が充分におよび、人も家もないあたりで、大空にむかつて浮んでゐるその瞬間、もしこれをわたしに天が與へてくれたならば、わたしは何をそこで會得するか、それとも何にもしないか——

私は不自由な、都會生れの子だつた。しかも、まだ封建的殘物の濃厚な時代に、藏と藏の間に生れた虚弱兒だ。品川の海を時々ながめ、鎌倉の海を、やつと見せてもらへる位だ

つた。男女七歳にしての庭訓をしへきびしくて、水練の修得などをうる機會はなかつた。それで、そこに蟄服して育つた女の子わたしは、馬に乗ることと、海におよぐことが、一度やつてみたい念願だつた。やつてみて、やれなくはなかつた年頃になると、病わづらひがちな身になつてしまつた。

泳げないから水をおそれる。そのくせ水が——水邊がすきだ。水の趣きは、實に興味多々だ。ことに盛夏になると、水、水ではないか、仕事をしたあとで飲む一杯の水でも、コップを手に差しあげて、なみなみ盛つた豊ゆたけさを眺め飲みほすと、生活の力が流れ込むやうに思へる。

（「生活と趣味」昭和十年七月八日）



# 青空文庫情報

底本：「桃」中央公論社

1939（昭和14）年2月10日発行

初出：「生活と趣味」

1935（昭和10）年7月8日

入力：門田裕志

校正：仙酔ゑびす

2008年12月7日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 水

## 長谷川時雨

2020年 7月18日 初版

### 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>